

# 町営駐輪場の定期利用申請を受け付け

町営駐輪場の平成24年度定期利用(平成24年4月から平成25年3月分)の受け付けを行います。

許可者には、許可証・ステッカーを交付します。

※交付開始日以降は、窓口が大変混雑しますので、早めに申請してください

▼受付開始日 3月12日(月)

▼交付開始日 3月19日(月) ※3月18日までは受け付けのみとなり、許可証・ステッカーの交付は3月19日からとなります

▼受付場所・日時 ①駐輪場管理入室・毎日5時～22時、

②役場生活環境課・祝祭日を除く(月)8時30分～17時15分

## 申請に必要なもの

### 新規利用の方

申請書、印鑑、身分を証するもの、自転車の場合は車体番号・防犯登録番号、原付の場合は、車体番号・標識番号、学生は学生証

※申請書は受付窓口にて記入

### 継続利用

利用許可証、身分を証するもの、学生は学生証 ※年度をまたぐ更新はできません

### 町・園駐輪場管理入室

生活環境課生活安全班 ☎(73)8308 ☎(70)0387

## 認可外保育施設の利用者に助成金を交付

町では、認可外保育施設を利用している保護者へ助成金を年2回交付しています。今回、10月から3月利用分について申請を受け付けますので、各認可外保育施設や社会福祉児童課窓口に備え付けの申請

書等の提出をお願いします。

### 支給要件

- ①保護者と子どもが町内在住であること。
- ②一定の要件に該当する認可外保育施設(事業所内保育施設等を除く)であること。

③ひと月の利用日数が15日以上であり、かつ、保育料が3万円以上であること。

### 助成額(月額)

- ・3歳未満児 6,600円
  - ・3歳以上児 4,100円
- ※平成23年4月1日現在の年齢
- ▼受付期間 4月2日(月)～6日(金)
- 町・園社会福祉児童課児童福祉班 ☎(70)0331

## ガスメーターのガス遮断機能と復帰操作の手順

安全にガスをお使いいただくために、ガスメーターにはマイコン制御によるガス遮断機能が組み込まれており、次のような場合に自動的に遮断します。

- ガス漏れなどにより、ガスが異常に多く流出したとき
- 器具の消し忘れ等によりガスを長時間、連続使用したとき

＜連続使用した場合に自動遮断する時間＞

- ・コンロ、ストーブ・ファンヒーター=720分
- ・FFストーブ=260分
- ・ふろ釜、小型湯沸かし器、床暖房室外機=140分
- ・大型湯沸かし器(20号)=40分
- ・大型湯沸かし器(24号～)=20分

※器具が最大能力で運転した場合に遮断するおおよその目安で、外気温度や器具の運転状況により変動します

- 感震器が大きな地震を感じたとき
- ガスの圧力が低下したとき

### 復帰操作手順

ガスが遮断してしまった場合は、赤いランプが点滅します。ガス漏れの疑いもありますので、はじめに、ガス臭くないか十分確認し、ガス臭くないときは以下の手順で復帰の操作を行ってください。

<p>① 器具栓を閉じるか運転スイッチを切り、全てのガス器具を止める。</p> 	<p>② 復帰ボタンのキャップを外す。</p> 
<p>③ 復帰ボタンを奥までしっかり押してから指を離す。赤ランプが再び点滅します。</p> 	<p>④ 約4分待つ。この4分間でガス漏れを確認し、なければ点滅が消えてガスをお使いになれます。</p> 

※操作をしても復帰しない場合や、赤ランプの点滅が消えない場合は連絡ください

問ガス事業課 ☎(72)1131

## コスモス通信

### 大網白里町サッカーフェスティバル結果

町サッカーフェスティバルが2月11日・12日に開催されました。隣接市町チームも参戦し、熱戦を繰り広げました。結果は次のとおり(敬称略)。

### 第16回大網白里町長・ライオンズクラブカップサッカー大会

- ▼小学5年生の部
  - 優勝 勝みずほFC
  - 準優勝 勝みずほFC(A)
  - 第3位 パサニール菅田
  - ▼小学6年生の部
    - 優勝 勝みずほFC
    - 準優勝 勝みずほFC(B)
    - 第3位 パサニール菅田
- ▼第14回今井健次郎杯・ライオンズクラブカップサッカー大会
  - 優勝 勝みずほFC
  - 準優勝 九十九里JFC
  - 第3位 芝山JFC
- ▼第14回今井健次郎杯・ライオンズクラブカップサッカー大会
  - 優勝 勝みずほFC
  - 準優勝 大網中学校
  - 第3位 芝山中学校
- ▼第16回大網白里町長・ライオンズクラブカップサッカー大会
  - ベストイレブン 田中翔大、松崎俊之、中山泰暢、岡沢亮、田野雅大、佐久間秀幸(以上ACカラテル)
  - 石川皓大、宮内利幸(以上大網中学校)
  - 内山潤也(茂原南中学校)
  - 佐藤匠(芝山中学校)

## 九十九里浜を襲った大津波

### 元禄地震等から学ぶこと

#### 最終回

### 津波は繰り返し襲うもの

世界で発生するM6以上の地震の約20%が日本周辺で発生している。原因は、4つのプレートがひしめく上に日本列島があるためである。大地震の巣は房総半島周辺に多い。海底で地震が発生すると、海水が持ち上げられるため、沿岸の海水は一度震源域に引き寄せられ、津波となって押し寄せてくる。元禄は3波、東日本大震災では7波が三陸沿岸を襲い、最終7波の到達は午後8時半ころであった。

### 津波避難ビルの建設は容易ではない

津波避難ビルや避難場所等の問題が喫緊の課題となっている。大網白里町は、海岸(約3.3kmの海岸線)から丘陵地帯まで東西約14kmの細長い町である。従って地域ごとに課題もあり、財政難の折から津波避難ビルの建設は容易ではない。地震・津波は、竜巻と違い事前の備えさえあればある程度の対応が可能である。一つの案として、海岸から大網・永田駅までの主要道路に、1km毎に海抜(標高)表示と、汀線(波打ち際)からの距離「標示板」(含電柱)設置は

### 不可能ではない。町民や通過車両等への情報提供は、広域災害を念頭に置いた最低限の危機管理といえる。

### このシリーズで紹介してきた古文書の殆どに「地震があったら津波が来ると思い早く逃げ去るべし」と、江戸の先人は啓発している。

### 東日本大震災から学ぶ

文字に記された国内最大の地震発生から一年になる。平成12年10月、全国沿岸市町村「津波防災サミットin白里海岸」が本町で開催された。津波、防災研究の第一人者が集まり、初日、筆者もパネラーの一人に招かれた。2日目、岩手県田老町(現宮古市)町長から、明治と昭和三陸津波で多数の犠牲(明治29年11859人、昭和8年911人)が出た町の惨状と対策が報告された。危惧していたのが、①避難訓練の参加者が年々減っていること②核家族化で津波体験を語り継ぐ人が少なくなり、過去の被害が風化してきていることの二点であった。昭和の震災後、田老町に高さ10m、長さ約2.5kmの二重防潮堤が築かれ国内外からの視察団も多かったという。しかし、この度15mの津波は簡単に乗り越え、またしても百人単位の尊い命が奪われた。防潮堤への依存や安心感、避難訓練の参加者減少等々は、三陸沿岸の各地で見られた。

### 「写真2」

「天災は忘れた頃にやってくる」という寺田寅彦の名言を、一人一人が心に刻み、近い将来必ず到来する巨大地震や大津波の備えとしたい。

### 「写真1」

大網白里町郷土史研究会会長 古山豊



(写真1) 津波避難丘(鴨川市前原)



(写真2) 東日本大震災「献花台」石巻市立大川小学校付近